

今月の法話

## 一、「宇宙と華嚴」 二「供物と功德 彼岸の心得」

### 一、宇宙と華嚴

冬から春へ、植物は芽吹き花を咲かし、鳥や虫、動物達も活発に動き出します。もちろん私達も身体の動きが軽くなり気持ちも高まります。これらはごく自然の営みの中に流れていますが、時として急に冬にもどったかのように冷え込むと思えば、初夏のような暖気、また嵐や豪雨など予測が付きません。地震をはじめとする災害も同じです。まず私達は予測不能な世界に生きている事を自覚し、あらためて生かされている自分を感じてください。

さて東大寺の宗派は華嚴宗で、根本とする経典は華嚴経です。釈迦が三十五歳の時に悟られた教えですが非常に難解な経典です。華嚴経とは私達と宇宙を結ぶ教えといわれます。広大な宇宙からみれば地球は本当に小さな存在です。しかし、その中で生かされている私達はさらに小さな存在なののでしょうか？実は私達が感じている存在感とは全く意味の無いものなのです。宇宙とは大きさや形で示す事が出来ない無限世界といっても過言ではありません。何より大切な事は私達自身が宇宙の一部であり、宇宙そのものということなのです。私達は物事を己の範疇の中で善悪、正誤を判断してしまいがちですが、宇宙の中の私、として自らを捉えることが重要です。華嚴の世界とは、そのような宇宙観をもった世界なのです。そして華嚴の教主、毘盧遮那仏をはじめ、仏達の御姿というのは私達の心が安らぎ、落ち着く為の仮の御姿を示されているといっても良いでしょう。

生きるとは苦しいことです。それは様々な執着を断ち切れないからです。生きていくには欲も必要ではありませんが、自身のみ欲ではなく、己を含む全ての者たちの幸せを願うことが華嚴世界に近づけることなのです。これは後述の十地経に説かれています。そして、人は極楽や地獄を知らずして口に出すことも多々ありますが、死後の世界のことでなく、この世は両方が存在する世界であり、六道（地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天道）はこの世にあります。全て混在しており、華嚴世界もこの世にあります。一瞬にしてあらゆる道に通じてしまいます。華嚴経の如心偈が「心は巧みな画師である」と説いているように、あらゆる事象は己を通して造られているのです。

華嚴経の中心思想の一つに「十地品」があります。これは菩薩道を發願してから如来の境地に達するまでの十段階の教えです。

- 一、歡喜地 二、離垢地 三、發光地 四、焰慧地 五、難勝地 六、現前地 七、遠行地  
八、不動地 九、善慧地 十、法雲地

六番目までは自利の修行で七番目から十番目までが利他行が説かれています。

経典の中でこの十地を説いているのは「金剛藏菩薩」ですが、金剛藏菩薩は仏の神力を受けて十地を説いたものの解釈まではしませんでした。しかし菩薩を代表して解脱月菩薩が何故解釈をしなかったのか説明を求める話から十地品は延々と展開していきます。

金剛藏菩薩は答えます。菩薩の「行地」つまり菩薩の心境などといったものは本当に微細なものゆえ、凡人の目には見ることでできないもの、最上の境涯を聞いても何もわからない者はただ迷惑するだけ、ゆえに「十地」の解釈はしなかったと言われました。それでもどうか菩薩の十地を解き明かしてくださいと解脱月菩薩は懇願します。そしてやつと金剛藏菩薩は菩薩の十地を説き始めるという流れです。

華嚴経の中でも十地品と入法界品の章は重要視されています。入法界品は善財童子が人生を知り尽くした五十三人の善知識を訪ねて、悟りへの道を追求する物語となっています。

これからも華嚴経は勉強会に取り入れ、学んでいきます。「仏教」とは人が人として生きる為の人格を学び実践する教えであり、人類が進歩する為の導きです。共に精進してまいりましょう。

### 二、供物と功德 彼岸の心得

私たちは彼岸（悟りの世界）に向かって四苦八苦の人生を乗り越える為日々精進し、修行を重ねています。そして、ご先祖様に感謝し回向することでも功德を積んでいます。

そこで、仏縁を持った皆様には正しい供養と供物の意味を今一度知っていただきたく思います。

「念珠」：念珠（数珠）は咒数とも言い、仏様を拝むときには絶対必要なものです。念珠を用いずに拝むことは「佛を手づかみにする」といって大変に失礼なことといわれます。ゆえに、常に身に持って仏を念じ、御守護を得てください。そして数珠に関してこのような教えがあります。

昔、インドの波瑠璃国の王様がお釈迦様の所へ使者を送り伝えました。使者は「私の国は四方を強国に囲まれているため、戦乱が絶えず内政も安定しません。また、疫病や飢饉が続き国民が苦しみ、仏を念じようとしても心の平静が保てず、煩惱に苦しみ続けています。また、直接説法をしていただくには遠いので、煩惱を払い正しく祈る方法をお授けください。」と哀願しました。その時、お釈迦様は菩提樹の実を百八個手に取り、穴をあけて糸を通して一連の輪となし、「これを常に持って一つずつ仏を念じて繰り返し続けるならば、ついに煩惱の障りを除き、無上の果報が得られる」と言われました。数珠とはこのように、人間の煩惱、妄念を退けるために用いる道具なのです。

「六種供養」六波羅蜜の象徴である御供をすることによって自身が悟りを得る為の修行となります。

一、**閼伽（布施）**：仏様を供養する時、必ず閼伽（水）をお供えします。この閼伽は「布施の心」を表します。布施とは施しをあまねく十方に布くことです。水は生命の源であり、全ての生き物を育てる大切なものです。ゆえにこの一身を三世十方の諸佛の前に投げ出して、学問のある人は学問を、お金のある人はお金を、力のある人は力をもつて仏や人の為となすことこそが布施の心なのです。この布施の心は自身の不浄を除きます。

二、**塗香（持戒）**：塗香とは仏様の身を良い香りで飾るためのものです。香を身につけると気持ちが良いように戒を持つとすべての煩惱から逃れることが出来ます。仏様の教えを守ると、身は清浄となり、慎み深く、敬虔な態度を保つていくことが出来ます。戒律を守ることの大切さを学びます。

三、**華鬘（忍辱）**：仏に花を供えるのは忍辱の行であり、柔和慈愛を養うことができます。美しい花を見て心を和らげ、苦痛に耐え忍ぶことを学びます。

四、**線香（精進）**：仏道に精進する決心を表します。線香にはさまざまな功德があります。一度点火すれば急がず焦らず、最後まで燃やし尽くす。このように私達も一度精進しようと決心すれば、それを成就し完成するまで努力を推し進めなければなりません。また線香の煙は不浄の気を消します。努力精進の前には一切の不浄不祥が消されるのです。

五、**飲食（禪定）**：お腹が減ると心がそわそわして落ち着きません。ご飯は心を鎮める徳とされています。自身の心をお金や地位等で落ち着けることなく、仏様の下で心を落ち着けようという心が禪定です。

六、**灯明（智慧）**：閼伽は光によって照らされます。霊は光明を特に喜び慕います。そして光明は宇宙の中心であり、光の仏である大日如来（毘盧遮那仏）を表します。それはすなわち悟りの教え（智慧）なのです。智慧を得る大切さを学ぶことができます。

以上のものを仏様にお供えすることを**莊嚴**といい、六種供養のお供え物の意味となっています。まずは感謝の心を持って仏様に敬意と、仏道を歩む覚悟を示すことで自身の仏心の開花を目指してください。今月は彼岸月です。この時期は私たちにとって仏様とのご縁を深め、恩徳を報謝する大切な功德日であること心してください。

合掌

## 南無日月光妙法蓮華經

\*三月のラッキーカーラ、暗剣殺、五黄殺（三月六日・四月四日）一年通してのラッキーカーラは縁です。

\*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

三月のラッキーカーラ 赤 白 銀 暗剣殺 北 五黄殺 南

### 【お知らせ】

- ① 四月の勉強会の日程 普賢光明寺・四月一日（火）五日（土）六日（日）正午より。  
横須賀支部・四月二十日（日）産業交流プラザ 小田原別院・四月二十七日（日）いずれも午後二時より
- ② 仏生会・四月八日（火）午前十時より厳修いたします。釈迦誕生の祝いは縁起の根本であり、生命力が授かります。是非ご出席ください。
- ③ 本年の大黒天授祭は五月十一日（日）に厳修いたします。
- ④ 仏像彫刻教室・四月十三日（日）五月十八日（日）正午より
- ⑤ 令和七年度の年会費と会員証の更新は四月となります。よろしくお願いたします。（受付は三月より）
- ⑥ 智慧と魔除けの霊力を秘めた桃の木から作る「ぼけ封じ守り」をご祈禱し用意しております。郵送も可能ですのでご希望の方はご一報ください。御守りは期間限定で数にも限りがございます。（一体五百円）